

『羊の歌』 公開講読会の開催状況について

干場 利則

立命館大学加藤周一現代思想研究センターでは、加藤周一（1919—2008）の代表作のひとつである『羊の歌』を課題本とし、以下の実施概要にもとづく公開講読会を開催している。この購読会は、2019年9月28日から始まり2023年3月末現在で33回を数えることになる。なお事務局は、同大学図書館利用支援課と衣笠リサーチオフィスが担当している。

〈実施概要〉

(1) 開催目的

- ①加藤周一の功績と加藤周一文庫の存在を学内外に周知させること（教材は加藤周一の著作から選ぶ）。
- ②本講読会の参加者には、書物を一言一句「精しく読む」ことで、書物の理解を深める方法を修得できるようにすること。同時に講読会開催を学内外に発表することで、本企画の社会的発信（参加型社会発信）を目指すこと。
- ③各回の運営に関しては、若手研究者（主に大学院生）が、小規模であろうと公衆に対する講読会の設営・運営を経験する機会とすることにより、他者に自分の考えを伝える技術（実践的なスキル）を習得すること（若手の人材育成の一環）。

(2) 各回の運営

加藤周一現代思想研究センターの構成メンバーと大学院生のスタッフが輪番で講師を務めることとし、加藤周一の著作を講読し、

参加者から出された疑問点等については、質疑応答を交え進めることとした。

(3) その他の事項

- ①課題本は、加藤周一『羊の歌——わが回想』（岩波新書、1968）で、旧版・改訂版ともに可能であり、各回の配布資料の典拠には、それらの別を明示すること。副読本は、鷲巣力『加藤周一はいかにして「加藤周一」となったか——『羊の歌』を読み直す』（岩波書店、2018）。参考文献は、鷲巣力・半田侑子（編著）『加藤周一青春ノート 1937-1942』（人文書院、2019）。
- ②課題本は講師も含め講読会への参加者が予め購入等により入手する。
- ③各回の講師は、課題本の1章ずつを担当し、1回で終わらない場合には翌月に引き継ぐ。また、講読会に参加しているメンバーが必要に応じて補足説明する。
- ④時間は毎回4時間程度。当日の進行は、講師による課題本の指定箇所のプレゼンテーション（120分）、休憩（10分）、全員でプレゼンテーション（110分程度）。
- ⑤参加対象は、本大学在学学生および一般市民。
- ⑥参加募集定員は20から30名程度。
- ⑦参加費は無料。
- ⑧実施会場：平井嘉一郎記念図書館・1F・カンファレンスルーム（予約状況によっては、学内の別会場の可能性も有り）
- ⑨開催スケジュール等の詳細については、加藤周一現代思想研究センターの以下のURLを参照。

https://www.ritsumei.ac.jp/research/center/kato_shuichi/

以上のような実施概要にもとづき、『羊の歌』公開講読会は、月1回

(土曜日を原則)のペースで開催しており、2023年3月4日に開催された会で32回を迎えた(途中2020年4月から12月までは新型コロナウイルスが蔓延し休会。また、それまでの開催形態は、対面のみで行っていたが、2021年1月からはオンラインでも開催する形となった)。

これまでの受講者数は、実人数で168人、延べ人数で、1319人(1回あたりの平均受講者数は45人。また1人あたりの平均受講回数は7.9回)の方々にご参加いただいた。また、当初の受講者数は30名程度であったものが最近では70名を超える盛況ぶりである。参加者が徐々に増えており、この公開講読会が支持を得られているものと考えている。

こうした『羊の歌』公開講読会参加者の満足度(公開講読会の各回終了後に行なっているアンケートの設問の中には、受講者の満足度を問う設問があり、講演内容に対する評価を、「特によかった」、「よかった」、「普通」、「あまりよくなかった」、「よくなかった」からの5択)については、回答のほとんどが「特によかった」「よかった」に集中しており、参加者の満足度は高いと判断している。

なお、代表的な感想や意見を以下に紹介したいと思う。

- ・寅次郎〔山田洋次原作・監督の松竹映画『男はつらいよ』の主演・渥美清が演じる車寅次郎のこと〕との比較に斬新さと驚きを感じました。大変わかりよかったです。(第4回：2020年12月12日)
- ・加藤周一が加藤周一になっていく時期の話がおもしろい。(第10回：2021年3月13日)
- ・新しい試み〔段落ごとに進める〕が良かったと思います。1回の講読会で1章終わらなくても有益だと思います。また発表者+司会というスタイルも進行の上でも議論を進める上でも有益でよかったと思います。(第12回：2021年5月15日)
- ・初参加です。講読会の詳細さに感銘を受けた。文章を深く読み取る

ことの大切さを感じます。(第23回：2022年5月28日)

2019年9月28日に始まった『羊の歌』(正編)の講読が、22年度の最終回、3月18日の33回目で終える。しかしながら23年度も本公開講読会の継続を望む声が高く、その課題本として『続羊の歌』の精読を希望する人が多い。以上に鑑みて、加藤周一現代思想研究センター運営委員会と加藤周一文庫運営委員会に、その継続を諮ったところ、幸いにも承諾を得たので、23年度以降は『続羊の歌』の精読を続けることとした。本稿をお読みになった方が、少しでも新たな受講生となっていただけることを願っている。

(ほしば としのり 立命館大学図書館利用支援課)

加藤周一文庫公開講読会



加藤周一 続羊の歌 を読む

■開催スケジュール

4月22日[土]「信条」

講師＝半田侑子（加藤周一現代思想研究センター研究員）

5月13日[土]「信条」(続)

講師＝半田侑子（加藤周一現代思想研究センター研究員）

6月17日[土]「広島」

講師＝落合優翼（文学研究科博士後期課程）

7月22日[土]「広島」(続)

講師＝落合優翼（文学研究科博士後期課程）

*担当講師および講読の章については進捗度合いにより変更もあり得ます

講読会は対面とオンラインの併用で行う予定ですが、
コロナ状況によっては、オンラインのみになる可能性があります

対面の会場：衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム
時間：毎回13:00開始－17:00終了予定

課題図書 加藤周一「続羊の歌—わが回想」岩波新書

副読図書 鷲巣力「加藤周一はいかにして「加藤周一」となったか」岩波書店、2018年

参考図書 鷲巣力・半田侑子「加藤周一青春ノート 1937-1942」人文音院、2019年

*「課題図書」は、各自御持参ください

申し込み・問い合わせ先|加藤周一現代思想研究センター事務局

TEL：075-465-8225 FAX：075-465-8245

E-mail：rcsk@st.ritsumei.ac.jp

主催 | 加藤周一現代思想研究センター

共催 | 図書館利用支援課、衣笠リサーチオフィス

